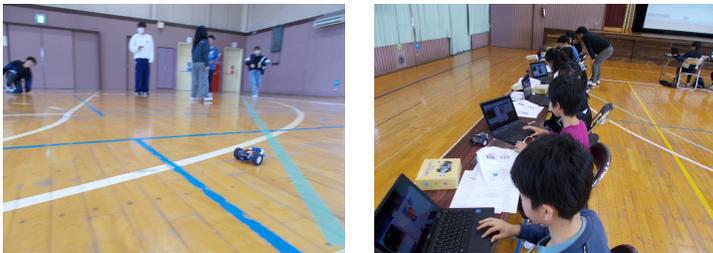


「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立白山小学校
校長 近藤 久美子

事業テーマ	地域や社会と連携し、生きる力を育む教育活動	
取組の目的	(1) 児童の未来につながる、地域との持続可能な連携 (2) 出前授業による、実感をともなった理解、概念的な知識を活用し、新たなものを表現する創造性の育成 (3) さまざまな教科を合わせて解決する総合的な問題解決能力の育成	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ 継続事業 （総事業年数2年間、2年目）	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	昨年度は地域連携の一環として3Dプリンターを活用した教育活動を推進した。しかし、デジタル技術の進展は極めて急速である。本年度はこれまでの成果を踏まえ、総合的な学習の時間において、最新技術を取り入れた体験的な学びを導入する。これにより、本校のテーマである「SDGs（持続可能な開発目標）」の実現に向け、先端技術を用いて課題を解決する資質・能力の育成を図る。	
事業名	事業内容	実施時期
	本校の総合的な学習の時間は学年ごとの小課題をESDの考えの基、総合的に組み合わせ、持続可能な開発目標「SDGs」を横断的・総合的な課題として設定し、最終的にSDGs17の目標が全て達成されるよう計画している。	
3年生 総合的な学習の時間 「福祉の視点からSDGsの目標を探究し、持続可能な社会をつくり、生きる力を身につける」	SDGs 3・5・10・11の中から学校や家庭において、人によって困ることはないかという視点で課題を見つけた。その見つけた課題を解決するために3Dプリンターを活用し解決ツールを作成・発表した。既存にないものを実際につくり出すことで、新たなものを表現する創造力が培われた。	年間
	 	

<p>4年生 総合的な学習の時間 「環境の視点からSDGsの目標を探究し、持続可能な社会をつくり、生きる力を身につける」</p>	<p>SDGs 6・13・14・15に関連する問題として「海に関する問題」を扱い水中ドローンで撮影した海の映像をVRで見ることで、さまざまな地域の海・さまざまな時間帯の海を実感した。また、ドーム型スクリーンの中に入り、東京からの遠隔操作で映像のキャラクターが本校児童の疑問に回答する体験も行った。その体験からSDGsの問題をVRを用いて解決する手段を考えることで、教科を総合し、多面的に問題をとらえ解決する力が身に付いた。</p> 	<p>年間</p>
<p>5年生 総合的な学習の時間 「情報(科学技術)の視点からSDGsの目標を探究し、持続可能な社会をつくり、生きる力を身につける」</p>	<p>出前授業でプログラミングによるロボット操作体験を行い、意図した操作ができることを学んだ。その体験を基にSDGs 6・13・14・15に関連する世界の問題から、ロボットによって解決できるものはないかと考え、危険地帯への物資配布など、誰にとってもメリットのある持続可能な解決方法を提案する力が身に付いた。</p> 	<p>年間</p>
<p>6年生 総合的な学習の時間 「国際理解の視点からSDGsの目標を探究し、持続可能な社会をつくり、生きる力を身につける」</p>	<p>ドローンの飛行操縦体験、シミュレーションゲームを行い、陸上のロボットとは違う、空だからこそ社会問題の解決の可能性を実感した。そこでドローンを活用し、SDGs 1・4・7・16の問題に対する解決方法を考え、17全ての目標とともに生きようとする姿勢が身に付いた。</p> 	<p>年間</p>

取組の成果

先端技術（3Dプリンター・VR・ロボット・ドローン）を活用した体験活動により、児童はSDGsを実感を伴って理解できた。各学年の発達段階に応じた課題解決の実践は、既存の枠にとらわれない創造性や、多角的な視点から解決策を提案する資質・能力の育成につながった。また、学年の段階的な取り組みを通じ、持続可能な社会の実現に向け主体的に関わろうとする意欲を育成することができた。

課題

外部講師や機器による体験を単なるイベントで終わらせず、探究的な学びとしてさらに深化させる必要がある。今後は、教職員自身が指導法を習得しSDGsという軸が学校独自のカリキュラムとして定着を図るとともに、学年間の交流や地域への発信を行い、学校全体として一体感のある活動へと発展させたい。